

令和8年度

生比奈小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

ともに学び、未来をたくましく生きる人間性豊かな児童の育成
～事実をもとに考えを深め、理由を挙げながら伝える力を育てる授業づくり～

校長

清水 一人

学力向上推進員

秋田 佳世

【各校の取組状況の把握について】

全学年、授業を公開する機会をつくり、管理職や教員からの報告を基に状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組んだり意欲的に活動したりできる児童が多い。 ○読書習慣が定着しつつあり、学級文庫の入れ替え等の取組が効果を上げている。 ●学級内の学力差が大きく、既習内容や他教科と関連付けて理解することに課題がある。 ●文章を正確に読み取り、必要な情報を選び出すことに時間を要する児童がいる。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、学習や生活の場面で活用できる。	・授業の導入や朝学習で、短時間で取り組める基礎的・基本的な復習を継続し、学習内容の定着を図る。 ・学習アプリを活用し、児童が自分のペースで繰り返し学習できる環境を整える。 ・学校図書館・町立図書館と連携し、学級文庫の入れ替えを計画的に行い、読書量を増やす。 ・文章を「正確に読む」ための手立てとして、線引き・段落要点のメモ・キーワード抽出などの読み取りスキルを学年に応じて指導する。 ・既習の漢字や表現を使ったり、考えを言葉でまとめたりする習慣をつけるよう、書く機会を増やす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話を聞き、意欲的に発表しようとする児童が多い。 ●話を聞く力にも差が見られ、指示や学習内容を理解するのに時間を要する児童がいる。 ●自分の意見や考えをもち、根拠や理由を挙げながら表現することに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにした自分の考えや思いを伝えることができる。 ・課題に応じて必要な情報を取り入れ、自分の考えを根拠や理由とともに伝えることができる。	・児童が話し合いとなる課題となるよう、発問を工夫し、話し合い活動のルールを作る。 ・ペア・グループ学習の前に、必ず「個人で考える時間」を確保し、思考の土台をつくる。 ・児童の発達段階に応じた話し方・聞き方の定着を図るために、教科による掲示を工夫したり言語環境を整えたりする。 ・学んだ内容を振りかえる時間を確保する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題には最後まで取り組む児童が多く、学習への基本的な姿勢は安定している。 ●自ら課題を見つけたり、学習の見通しをもって取り組んだりすることが苦手な児童が多い。 ●不得意な学習内容に対して、自分で方法を選んで克服する力が弱い。	・自分の興味や関心に応じて、進んで学習や読書に取り組むことができる。 ・学習の過程を振り返り、自分の課題に気づき、解決に向けて方法を選び取ることができる。 ・必要な情報を自分で探し、学習に生かすことができる。	・学習のめあてを明確に示し、「何を・なぜ・どのように学ぶのか」を児童が理解できるようにする。 ・自分の興味や疑問をもとに調べる活動を取り入れ、タブレットや本を使って情報を探す習慣を育てる。 ・自主学習ノートの良い例を紹介し、学習方法の幅を広げる。			